



野田中だより

人間市立野田中学校学校だより No.6

令和4年8月25日発行



コロナ感染の拡大が、この夏休みに第7波を迎え、行動制限がないとは言え、感染防止対策の継続、また、コロナ対応に苦慮されたことと存じます。そのような中でも、県大会では子どもたちの躍動する姿が見られましたし、吹奏楽部は、地区大会、さらには、県大会でも金賞を獲得し、見事、西関東大会への進出を決めました。よく頑張りました。西関東大会が9/10(土)と、市内統一で予定されていた体育祭と重なったため、先日、一斉メールでお知らせしたとおり、体育祭を9/13(火)の予備日に移動しました。詳細は別紙通知をご覧ください。本日より2学期がスタートします。スタートすることによって、感染状況がどのように推移するかは予測しがたいところです。感染対策は行ってまいります。場合によっては、教育活動の変更や中止等も視野に入れながら進めてまいります。今学期もご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

2学期始業式 ~講話より~

夏休みは35日ありました。7月の終業式では3点話しました。1点目は、あらかじめ計画を立て、規則正しい生活をしてください。2点目は、家の手伝いをしてください。3点目は、1学期を振り返り、2学期の目標を決めてください。どうだったでしょうか？振り返っててください。

さて、今日は稲盛和夫さんという人の話をします。稲盛さんは、企業経営者で、京セラやKDDI、今のauを作ったり、日本航空が赤字だったのを会長に就任し、3年で立ち直せたという人物です。稲盛さんが書いた本が『生き方』という本があります。この本の中によりよく生きるためのコツが書いてあります。



この中で、紹介したいのが「人生の方程式」というものです。稲盛さんは「人生・仕事の結果=熱意×能力×考え方」と言っています。よい人生や仕事を成功させるには、まず、熱意が必要です。いわゆる「やる気」です。これが高ければうまくいく可能性が高くなります。次に能力です。学力と言ひ換えることもできるかもしれませんが、熱意があって能力(学力)が高ければ、それを掛け算するので、よい人生を送ったり、仕事が成功する可能性が高くなるということです。問題は「考え方」でこれが一番重要だと言っています。つまり、「熱意」「能力」にはプラスしかありませんが、「考え方」にはマイナスもあります。「考え方」にはいい考えもあれば、悪い考えもある。プラスの方向に向かって持てる熱意や能力を発揮する生き方もあれば、マイナスの方向に向けて、その熱意や能力を使う人もいます。つまり、例え「熱意」や「能力」が高くても、「考え方」がマイナスだとしたら、よい人生やよい仕事はできない、ということです。

では、「考え方」とはどのような考え方でしょうか？稲盛さんは「人生も会社経営も原理原則はシンプルがいい」と言っています。すなわち「人間として何が正しいのか」という極めてシンプルなポイントに判断基準を置き、それに従って、正しいことを正しいままに貫こうと考えました。つまり、稲盛さんの「考え方」とは「嘘をつくな、正直であれ、欲張るな、人に迷惑をかけるな、人には親切にせよ」ということです。

先ほどの公式は「人生・仕事の結果=熱意×能力×考え方」ですから、高い熱意と能力があっても、なおかつ、嘘をつかず、正直であって、欲張らず、人に迷惑をかけず、人に親切にするという考え方で行動すれば、よりよい生き方につながります。今、コロナ禍の中で、思うように行動できなかったり、悪いニュースもたくさん流れ、私たちの心も荒みがちです。でも、必ず良いときはやってきますので、私たちの生き方・考え方として、「嘘をつくな、正直であれ、欲張るな、人に迷惑をかけるな、人には親切にせよ」を肝に銘じて生活できればと思います。

最後に、稲盛さんが大切にしている「6つの精進」を紹介します。①誰にも負けない努力をする。②謙虚にしておごらず。③反省ある日々を送る。④生きていることに感謝する。⑤善行、利他行を積む(善を行い、他を利する)。⑥感性的な悩みをしない(しても仕方のない心配にとらわれたり、くよくよと悩んでいてはいけません)。

2学期は80日間で、一番長い学期です。それだけ自分を大きく成長させるチャンスです。最初にも言いましたが、2学期の目標をしっかりと考え、実行していくことが大切になります。目標を掲げ、達成感のある学期にしましょう。

生き方

12歳から93歳まで、幅広い層の読者から感謝・絶賛の便り。数々の読者の人生を救った。60万部突破!

稲盛和夫

吹奏楽部 西関東大会へ

前述した通り、この度、吹奏楽部は昨年に引き続き、西関東大会出場を決めました。コロナ禍で練習がしにくい状況が続く中、部員、保護者、顧問の工夫・努力の結果であり、多くの人の応援をいただけたからと実感しています。西関東大会は9/10(土)新潟市で行われます。当日は、気負わず、普段の成果が出せるよう健闘を祈っています。以下は、部長さんの言葉です。



地区大会・県大会とも金賞受賞、次の大会出場獲得を目指そう、という気持ちを持って練習に励みました。自分たちにとって最高の演奏を届けたいという思いを胸に臨みました。しかし、実際に演奏を聴き、課題や改善点の多さに焦り、繰り返し練習しても上達していないことに不安を感じることもしばしばありました。西関東大会出場の枠を獲得できたのは、顧問をはじめとする先生方、外部指導の先生方、そして保護者の方々の力があってこそだと思います。本当にありがとうございました。西関東大会では、まず、私たちにとって、初の新潟のホールで演奏できることに感謝して、全力で演奏を楽しんでいきたいと思っています。昨年は惜しくも銀賞という結果で終わりになってしまったので、金賞を目標に、そして、東日本大会出場を目標に掲げて頑張りたいです。

成人(大人)になるために

先日、「18歳成人に関するアンケート」を実施しました。「『成人年齢が18歳に引き下げ』と聞いて、どのように感じましたか?」の質問では、「楽しみ」「楽しみの方が強い」を合わせると56.5%、「不安」「不安の方が強い」の43.5%という結果になりました。今、皆さんは中学生で「成人」というと遠い未来のことのように感じますが、3年生15歳だとあと3年、2年生14歳だとあと4年、1年生13歳だとあと5年で成人、いわゆる大人になります。あっという間です。

「成人年齢引き下げで、どのようなことが不安ですか?」と聞きました。一例を挙げると、①仕事上での不安、②親がやることを自分でできるとなること、まだ18歳から上手にできるか? ③契約など一人で自己責任を負うこと(トラブル)、などでした。「成人年齢引き下げで、どのようなことが楽しみですか?」と聞きました。一例を挙げると、①クレジットカードがもらえる、②一人で契約できる、③スマホの契約などでした。例えば、クレジットカード契約が一人でできるようになります。だから楽しみとを感じる人と、だから不安とを感じる人がいます。つまり、一つの事柄で楽しみにもなるし、不安にもなるということです。大人になるということは、子どもの時よりも自由が多い分、責任も大きいということになります。その現実を考えると楽しみもあるが、不安もあるでしょう。「あなたは18歳で大人になるに当たって、今、した方がよいと考えていることや実際に行動していることは?」と聞きました。皆さんからは①勉強する、②将来について考える(夢)、③自立する、④親に聞く、⑤礼儀を知る(時・場・礼)、⑥法律を理解する、⑦人との接し方を学ぶ、などでした。今回のテーマ「成人(大人)になるために」の答えが、まず、ここにあります。

今日はさらにもう少し掘り下げたいと思います。「幸せの方程式」という話があります。幸せには3段階あります。1段階目は「人からしていただく幸せ」です。赤ちゃんはお腹が空けば泣き、おむつが濡れれば泣きます。泣き声を聞いてお父さんやお母さんはミルクを含ませたり、おむつを替えてくれる。そうするととても気持ちがよく幸せである。2段階目は「自分でやり遂げる幸せ」です。跳び箱の5段が飛べた。逆上がりができるようになった。英語の検定試験に合格した。ピアノが上達した。サッカーがうまくなった。どれをとっても合格したり、できるようになると無上の喜びである。3段階目は「人に手を差し伸べる幸せ」です。人が欲しいことや困っていることを察して協力したり支援したりすると、相手は心から喜びます。人が喜んでくれることはうれしい。人の喜びと一緒に共有することは、幸せの方程式の中で、一番極上の答えと言えるのではないのでしょうか。

大人になるということは1段階目より2段階目、さらに3段階目の方がより大人だと感じると思います。皆さんは中学生であっても、人が喜ぶことをしていますし、それができる人は大人だと感じます。

では、大人になると人からしてもらうことはなくなるかということ、そのようなことはありません。人は大人になっても他の人から助けをもらったり、支援してもらわなければ生きていけません。大人とは人からしていただいたときに感謝する気持ちが持てる人だと思います。さらに、例え自分の力だけでやり遂げたと感じても、多くの人々が様々な場面で関わり、手伝ってくれています。やはり、どのようなときも感謝の気持ちを忘れないことが大切です。

~7/12全校朝会より~

